島根県水産試験場　漁海況情報　平成 16 年 6 月 30 日発行

トビウオ通信　（6月号）

http://www2.pref.shimane.jp/suisi/　（TEL 0855-22-1720）

《平成 15 年漁期の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業（かけまわし）

島根県の小型底びき網漁業（かけまわし）59 隻*の平成 15 年漁期（平成 15 年 9 月 1 日～平成 16 年 5 月 31 日）の総漁獲量は 4,799 トン、総水揚金額は 21 億 3,223 万円でした。1 隻当たり漁獲量は 81.3 トンで、平年（10 年平均）を 3%、水揚げ金額は 3,614 万円で、平年を 10%下回りました。今漁期は、休漁明け当初からエチゼンクラゲの大発生により、漁具の破網、操業回数の減少等がありました。また、冬季～春季にかけては島根沖冷水域の張り出しが弱かったため、全体的に低調に推移しました。

＊当漁業における島根県全体の操業隻数は 60 隻ですが、統計は 59 隻分の集計です。

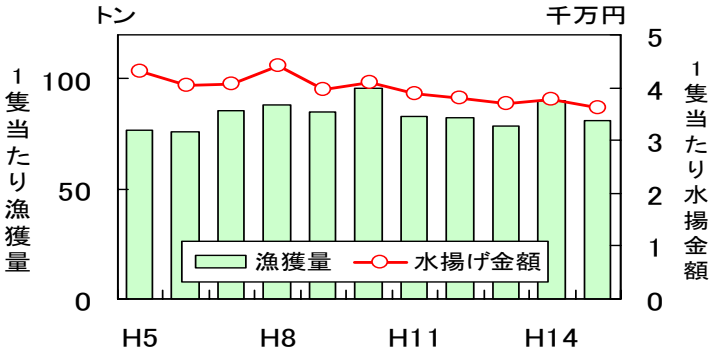


図 1 小型底びき網漁業における 1 隻当たり漁獲量・水揚金額の動向

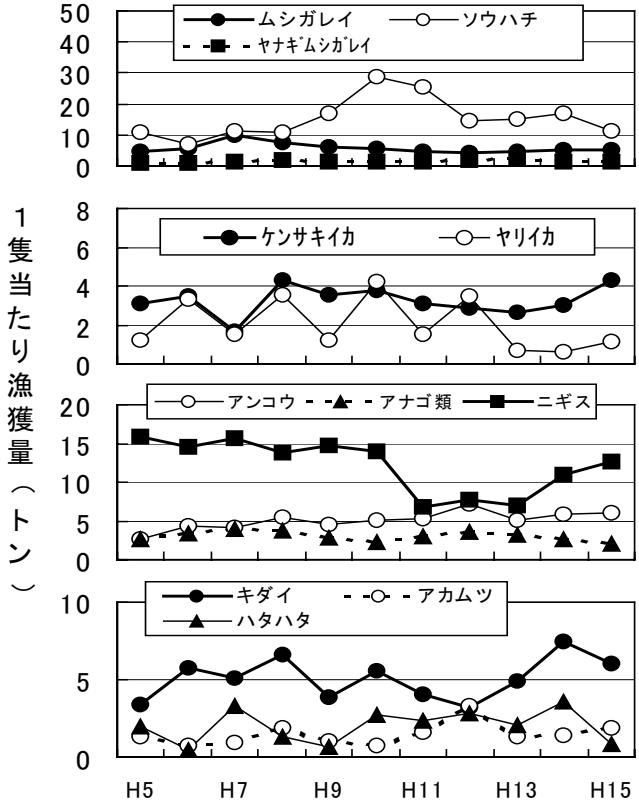


図 2　小型底びき網漁業における主要魚種の動向

カレイ類低調

ソウハチの 1 隻当たり漁獲量は 11.4 トンで、前漁期を 32%、平年を 28%下回りました。また、ムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 5.0 トンで、平年を 15%下回りました。一方、近年安定しているヤナギムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は平年を 11%上回る 1.6 トン、メイタガレイの 1 隻当たり漁獲量は平年を 19%下回る 1.5 トンでした。カレイ類は全般的に低調に推移しました。

ケンサキイカ好調！

ケンサキイカの 1 隻当たり漁獲量は 4.3 トンで、前漁期および平年の 1.4 倍の水揚げがあり、平成 8 年に次ぐ高い値となりました。また、前漁期不漁であったヤリイカの 1 隻当たり漁獲量は 1.1 トンで、平年の 1/2 の水揚げに留まりました。

ケンサキイカは秋漁を中心に好調に推移しましたが、ヤリイカは低調に推移しました。

ニギス好調！ハタハタ不漁

ニギスの 1 隻当たり漁獲量は 12.6 トンで、漁期を通じて好調に推移しました。キダイの 1 隻当たり漁獲量は 6.0 トン、アンコウの 1 隻当たり漁獲量は 6.1 トンで、平年の 1.2 倍の水揚げがあり、近年高水準で推移しています。一方、ハタハタの 1 隻当たり漁獲量は 0.9 トンで、平年の 4 割の水揚げに留まり、低調に推移しました。

この他、今漁期はイボダイの水揚げが急増し、1 隻当たり漁獲量は 4.2 トンで、過去 5 年平均の 3.3 倍、平成 10 年以降最高の水揚げとなりました。

沖合底びき網漁業(２そうびき)

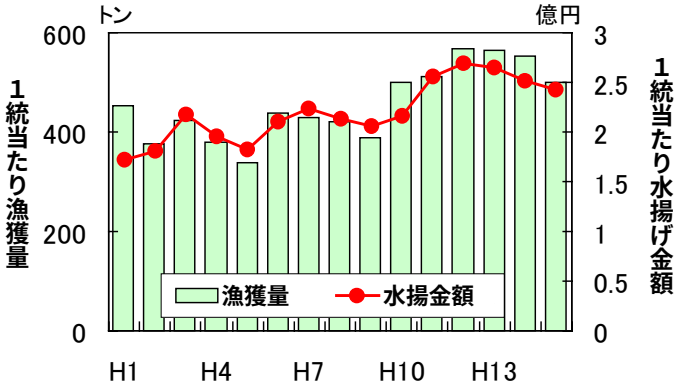


図 3　浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における 1 統当たり漁獲量・水揚金額の動向

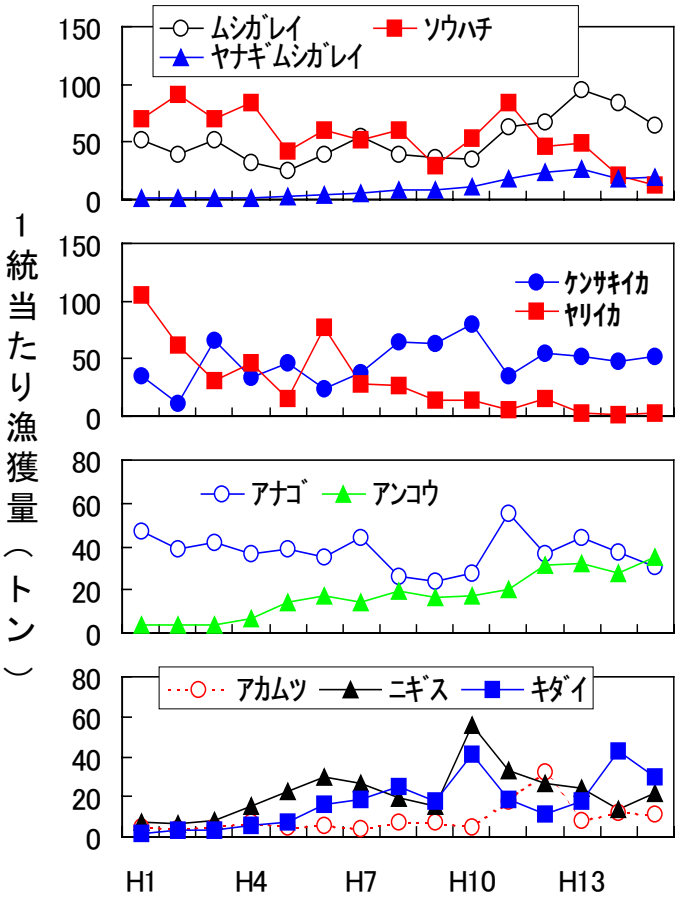


図 4　浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向

◆県西部

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数 7 ヶ統）の平成 15 年漁期（平成 15 年 8 月 15 日～16 年 5 月 31 日）の総漁獲量は 3,499 トン、総水揚金額は 17 億円でした。また、1 統当たりの漁獲量は 500 トンで、前漁期を 10%下回りましたが、平年（過去 22 年平均）並みの水揚げとなりました。水揚金額は 2 億 4,287 万円で前漁期を 3%下回りましたが、平年を 12%上回りました。今漁期は、小底同様にエチゼンクラゲの影響により低調に推移しました。

カレイ類低調

ムシガレイの 1 統当たり漁獲量は 64 トンで、前漁期を 24%下回りましたが、平年を 20%上回りました。一方、ソウハチの 1 統当たり漁獲量は 12 トンで、過去最低であった前漁期をさらに下回り、平年の 22%の水揚げに留まりました。また、ヤナギムシガレイの 1 統当たり漁獲量は 19 トンで、昭和 56 年以降、初めてソウハチの漁獲量を上回りました。

ケンサキイカ好調！

ケンサキイカの 1 統当たり漁獲量は 51 トンで、前漁期を 7%、平年を 11%上回り、好調に推移しました。一方、ヤリイカの 1 統当たり漁獲量はわずか 2.8 トンで、依然低調に推移し、資源回復の兆しが見えない危機的な状況となっております。

アンコウ・ニギス好調！

アナゴの 1 統当たり漁獲量は 31 トンで、前漁期の 83%、平年の 80%の水揚げでした。アンコウの 1 統当たり漁獲量は 36 トンで、昭和 56 年以降最高の水揚げとなりました。また、キダイの 1 統当たり漁獲量は 30 トンで、前漁期の 70%に留まりました。アカムツの 1 統当たり漁獲量は 12 トンで、前漁期をやや下回りました。一方、ニギスは前漁期の 1.6 倍、平年の 1.1 倍に当たる 22 トンの水揚げがありました。

◆県東部

恵曇港を基地とする沖合底びき網漁業（3 ヶ統）の平成 15 年漁期の総漁獲量は 1,073 トン、総水揚金額は 6 億 3,100 万円でした。また、1 統当たりの漁獲量は 358 トンで前漁期を 4%、平年を 10%下回りました。水揚金額は 2 億 1 千万円で前漁期をわずかに下回りました。

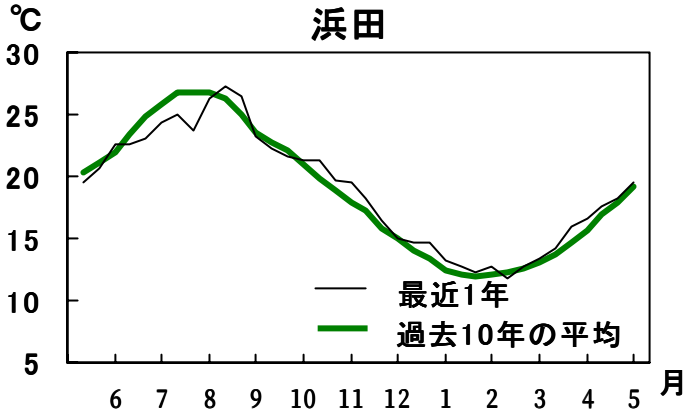
アンコウ好調！ムシガレイ・ヤナギムシガレイ・アカムツ平年を上回る

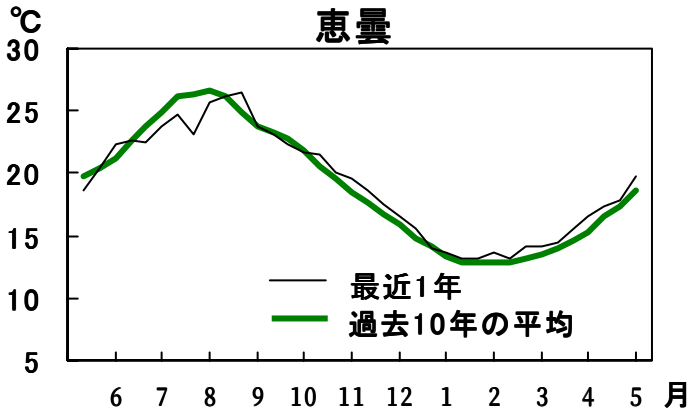
主要カレイ類の 1 統当たり漁獲量は、アカガレイが 68 トン、ムシガレイが 40 トン、ヤナギムシガレイが 50 トンと前漁期並みの水揚げでしたが、ソウハチは 19 トンで、前漁期の 60%、平年の 64%に留まりました。その他の主要魚種の 1 統当たり漁獲量は、アンコウが 40 トンで、前漁期の 1.6 倍、平年の 1.8 倍の水揚げがありました。また、キダイは 23 トン(前年比 105%)、アナゴ類は 19 トン(前年比 85%)でした。一方、イカ類の 1 統当たり漁獲量は、ケンサキイカが 6 トン、スルメイカが 7 トン、ヤリイカが 3 トンと低調に推移し、平年の４～６割の水揚げに留まりました。

《 5月の海況 》

5月	月平均	平年差	評　価
浜田	18.4℃	＋0.4℃	平年並み
恵曇	18.4℃	＋0.8℃	やや高め

5月の平均水温は浜田、恵曇共に 18.4℃となりました。先月と比較し、浜田では 2.9℃、恵曇では 2.8℃上昇しました。浜田の水温は平年並みとなりましたが、恵曇ではやや高めとなりました。





島根・鳥取・山口県の各水産試験場が実施した海洋観測結果（5/31～6/1）によると、各層の水温は、表層(0m)が 15.9～20.6℃(平年差は－0.4～＋1.7℃) 、中層(50m)が 6.8～19.1℃(平年差は－5.0～+3.2℃)、底層(100m)が 3.2～18.1℃(平年差は－4.1～＋3.6℃)となっていました。

沿岸域の水温は先月より約 2℃上昇し 20℃前後となり、表層では隠岐諸島東側海域で平年より高めとなった以外は平年並みとなりました。中、底層では、先月島根県沖 60 マイルに東西に広がっていた冷水域の中心が南北方向に広がり、やや隠岐諸島方向に移動しました。このため周囲の水温は平年より 2～5℃低くなりました。逆に、隠岐諸島北東海域に見られた山陰・若狭沖冷水域の勢力が弱まったため、隠岐諸島から鳥取県沿岸海域の水温は平年より約 2.5℃高めとなりました。

山陰沿岸海域の水温は、表層では「平年並み～かなり高め」、中層では「かなり低め～かなり高め」、底層では「かなり低め～はなはだ高め」となりました。

《　5月の漁況　》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量は、マアジ主体に 536 トン、総水揚金額は 6,650 万円でした。1 統当りの漁獲量は 179 トンで、平年(過去 5 ヵ年平均)の 141%、前年の 93%でした。水揚金額は 2,183 万円で、平年の 108%、前年の 141%でした。西郷では、マアジ、ウルメイワシ主体に総漁獲量 2,580 トン、総水揚金額は 1 億 1,917 万円でした。1 統当りの漁獲量は 860 トンで、平年の 151%、前年の 89%となりました。水揚金額は 3,972 万円で平年の 91%、前年の 98%となりました。浦郷ではマアジ、カタクチイワシ主体で、総漁獲量 2,261 トン、総水揚金額は 1 億 1,379 万円でした。1 統当りの漁獲量は 565 トンで、平年の 217%、前年の 133%となりました。水揚金額は 2,845 万円で平年の 120%、前年の 91%となりました。今月は特に隠岐地区でのマアジの漁獲が好調でした。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船（5 トン以上）の漁獲量は、スルメイカ、ケンサキイカを中心に 83.4 トンで平年（過去 5 ヵ年平均）の 77%、前年の 46%となりました。5 月に入りスルメイカの漁獲量は 66 トンに減少し、好調であった前年の約 4 割に留まりました。しかし、ケンサキイカの漁獲量が 17.4 トンと平年の約 4 倍と増加したため、水揚金額は平年並みとなりました。西郷のイカ釣船（5 トン以上）の漁獲量はスルメイカ主体で 56.8 トンと、平年の 83%、前年の 191%となりました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港では総漁獲量で 9%、金額では 3%前年を下回りました。イカ類はスルメイカ、ケンサキイカの両種とも前年を下回り、漁獲量は約半分に留まりました。アカムツは前年を大きく上回り、量で 2.8 倍、金額で 1.4 倍

となっていますが、単価は前年の半値となっており、小型魚主体であったことが伺えます。主な漁獲物はマアジ、ムシガレイ、アナゴ類、スルメイカでした。

恵曇港では、総漁獲量は前年を 25%、総水揚金額は 23%下回りました。１統当たりで見ると、漁獲量は前年並み、金額は 3%上回りました。カレイ類では、ムシガレイが量で 6%下回りましたが、金額で 17%上回りました。一方、ヤナギムシガレイは量で 10%、金額で 9%前年を下回りました（1 統当り）。主な漁獲物はヤナギムシガレイ、ムシガレイ、アナゴ類でした。

【小型底びき網漁業】

大田市漁協では、漁獲量で前年を 3%下回りましたが、金額は前年並みでした。主な漁獲物はニギス、ソウハチ、ムシガレイで、ニギスは前年の約 2 倍の漁獲量となっていますが、ソウハチは前年の半分以下（42%）の漁獲量に留まりました。

和江漁協では漁獲量は前年の 89%に留まったものの、水揚金額は前年を 5%上回りました。ソウハチは量で前年の 43%、金額で 62%に留まったのに対し、ムシガレイは前年を量で 57%、金額で 84%上回りました。ソウハチ、ニギス、ヒレグロ、ムシガレイが主に漁獲されています。

【定置網漁業】

漁獲量は県東部では前年および平年を下回りました。県西部では前年を上回り、平年並みとなっています。隠岐では前年を下回りましたが、平年を上回る漁獲量となっています。一方、水揚金額は各地区とも前年および平年を下回っています。各地区ともマアジが主体で、前年の約 2～5 倍の漁獲量となっています。その他、県東部ではトビウオ類やヒラマサ、県西部ではブリやケンサキイカなどが漁獲されています。隠岐ではブリ、カワハギ類が漁獲されています。

【釣・縄】

県東部では漁獲量・水揚金額ともに前年を上回り、県西部では漁獲量・水揚金額ともに前年を下回りました。両地区とも平年の漁獲量を下回ったものの、水揚金額は平年並みとなっています。隠岐では漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を上回りました。県東部ではスズキが主体で、その他ではケンサキイカ、スルメイカなどが漁獲されています。県西部ではケンサキイカ、メダイ、ブリなどが漁獲されています。隠岐ではメダイが主体で、その他ではカサゴ、メバル類、スルメイカなどが漁獲されています。各地区のメダイは前年の約 2～3 倍の漁獲量となっています。

漁獲統計　　**平成 16 年 5 月 1 日 ～ 31 日**

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	54	マアジ・カタクチイワシ	9.9 ﾄﾝ	536 ﾄﾝ
	西郷	57	マアジ・カタクチイワシ	45.2 ﾄﾝ	2,579 ﾄﾝ
	浦郷	77	マアジ・カタクチイワシ	29.4 ﾄﾝ	2,261 ﾄﾝ
イカ釣り	浜田	1,068	スルメイカ・ケンサキイカ	102Kg	109 ﾄﾝ
(5 トン以上)	西郷	445	スルメイカ	128Kg	57 ﾄﾝ
沖底	浜田	34	マアジ、ムシガレイ、アナゴ類	10.9 ﾄﾝ	371 ﾄﾝ
	恵曇	20	ヤナギムシガレイ、ムシガレイ	5.3 ﾄﾝ	106 ﾄﾝ
小底	大田市	322	ニギス・ソウハチ	638Kg	205.5 ﾄﾝ
	和江	467	ソウハチ・ムシガレイ	586Kg	273.6 ﾄﾝ
定置網	浜田	66	マアジ、ケンサキイカ、ブリ	676Kg	44.6 ﾄﾝ
	美保関	123	マアジ、ブリ、ホソトビウオ	357Kg	43.9 ﾄﾝ
	浦郷	75	マダイ、ブリ、カワハギ類	270Kg	20.3 ﾄﾝ
釣･縄	浜田	1,563	ブリ、メダイ、ケンサキイカ	20Kg	30.9 ﾄﾝ
	五十猛	409	カサゴ・メバル類、ケンサキイカ、スルメイカ	26Kg	10.7 ﾄﾝ

※　：1 隻（統）1 航海当漁獲量は総漁獲量÷延隻数・統数で算出しており、四捨五入した値です。